

提 案 概 要

実施期日	7月31日(金)
部 会 名	中学校 特別活動部会

1 提案テーマ 『生徒の自主的な態度を育て、連帯感を深める学校行事の在り方』

2 単元(題材) 野外教室

3 学年 第2学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 各内容に即した集団活動の在り方や望ましい人間関係の育成
- ③ 指導と評価の一体化を図るための評価の工夫・改善

5 学習指導要領との関連

第5章 特別活動 第2 各活動・学校行事の目標及び内容 [学校行事] 2 内容 (4) 旅行・集団宿泊的行事
平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

6 実践に向けての課題意識

本校の学校教育目標に、「優しさと勇氣に満ちた」とある。2学年には、優しい気持ちをもった生徒たちが多いが、自信がないことには積極的に取り組もうとしない。そこで、学年目標を「あいさつ」「判断」「積極性」とし、野外教室での活動を通して、学年の連帯感を深め、積極的、自主的に行動する態度を育てることを意識して、取り組んだ。

7 実践の概要

例年第2学年で宿泊を伴った野外教室を実施している。野外炊事やウォークラリー、キャンプファイヤーを通して、仲間との連帯感やクラスでの絆を深め、また、場面に応じてルールを守り、自分の役割を自主的に行うことを目標とした活動をしている。さらに、第3学年で行われる修学旅行へとつなげていくことを意識した取組をしている。

各内容の実施について、事前に学級委員(野外教室実行委員)が検討して進めてきた。学年全体のことを考え、協力して活動するよう指導した。学級委員も自分たちが企画・運営の中心であることを自覚し、意欲的に取り組んだ。

今年度の野外教室は、5月上旬に実施した。新学期開始後1ヶ月で行うため、1年生の1月より学級委員が実行委員として取り組み、計画的にクラスでの話し合い活動を進めた。

8 成果と課題

〈成果〉

- ・ほとんどの生徒が指示を待って行動するのではなく、しおりを見て場所や時間を確認して自主的に行動することができた。また、場面に応じて、係の仕事等、それぞれが自分の役割に責任をもって行動することができた。
- ・班の仲間と協力してウォークラリーや野外炊事を行うことができ、連帯感を深めることができた。また、マスをつかみ取りし、自分でさばき、調理して食べることを通して、自然の恵みに感謝する心をはぐくむことができた。
- ・評価としては、ウォークラリーや野外炊事、キャンプファイヤーへの取組や時間を守り、自主的に行動することができたことから、集団活動や生活への関心・意欲・態度、また、集団や社会の一員としての思考・判断・実践について、目標が達成できたと感じている。

〈課題〉

- ・例年は、もう少し遅い時期だが、今年度は、新年度開始1ヶ月での実施だったため、家庭訪問等があり、放課後の時間を使うことができず、準備の時間があまりとれなかった。また、実施後1週間で体育祭の練習が始まり、係や班ごとのまとめや振り返りはできたが、個人のまとめが十分でなかったと感じている。
- ・準備・まとめを通して、時間の捻出が難しく、総合的な学習の時間と関連を図りながら取り組んだ。

9 予想される協議の柱

- ・「自主的な態度を育てる活動内容(宿泊的行事)の工夫」について
- ・「評価」の工夫・改善について